



## 平成28年度入学式が行われました



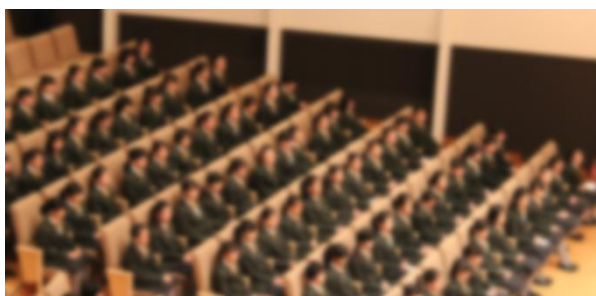
4月2日（土）、洗足学園中学校入学式が行われました。

生憎の曇り空ではありましたが、満開の桜が咲き誇る中、252名の新入生を迎えることができました。トランペットの華麗なファンファーレとともに開式した入学式では、国歌斉唱の後、担任の先生による呼名が行われました。新入生の元気な返事からは、緊張や



不安を抱えながらもこれからの学校生活への大きな期待と喜びを抱いている様子が見えましました。その後は新入生代表による誓いの言葉、学校長式辞、校歌斉唱、洗足学園中学高等学校フィルハーモニー交響楽団による「威風堂々」の演奏が行われました。入学式を終えて、新入生は洗足学園の一員としての自覚を持つことができたようです。これからの学園生活の中で兼愛の心を持ち、社会に有意な女性に育ててほしいと思います。

ここで、新入生代表の誓いの言葉をご紹介します。



### 誓いの言葉

春の光がうららかで、桜が咲き誇る季節となり、本日、私達、252名は洗足学園に入学することができました。今朝、あこがれだった緑の制服に袖を通した時、合格発表の日の感激がよみがえり、そして今、これから過ごす6年間を想像して心を躍らせています。中学生生活に緊張や不安もありますが、晴れて洗足学園の生徒となれたことに気持ちを高ぶらせています。今ここにいるたくさんの仲間達と、これから6年間、いえ、一生の友人として、仲良くしていきたいと思います。また、これまで暖かく支え、時には厳しい言葉で背中を押してくれた家族に感謝します。

アメリカで、今でも人気の高い、ケネディー元大統領の就任演説の中に、“Ask not what your country can do for you; ask what you can do for your country.” という言葉があります。「国に対して何を望むかではなく、国のために何ができるかを考えようではあ

りませんか」という意味です。冷戦という時代の中で、国民の自立と連帯を求めたこの言葉の、「国」は「学校」に置き換えられると思います。

洗足学園の先生方は、熱心に勉強を教えて下さるでしょう。立派な施設や人工芝の広いグラウンドも用意されています。小学校時代は触れることが難しかったような楽器を演奏することもできます。

しかし、ぜいたくな環境でただ心地よく過ごすのではなく、恵まれた環境に感謝し、積極的に学び、考えを広げ深めていくことが大切だと思います。そのために、勉強、部活動や委員会活動はもちろん、模擬国連やボランティアのような学外活動にも、自発的にチャレンジして、意見を主張するたくましさ、多様な人々と協力する柔軟さを身につけたいと思います。私達が、切磋琢磨しながら、洗足学園をより素晴らしい学校に変えていけるように、頑張っていきたいと思います。

私達にとって、洗足学園での生活は、今日始まったばかりです。しばらくの間、戸惑うことも多いと思います。そんな時は、先生方、先輩方、どうか温かく手を差し伸べて下さい。よろしくお願いします。

最後に、私達新入生全員が、仲間達と励まし合いながら、夢や希望に向かって前向きな6年間を過ごしていくことをここに誓います。

平成28年4月2日 新入生代表 S.S.